



宮古島市教育委員会

新
宮古島市 neo 歴史文化ロード

宮古島市 つるの歴史文化ロード 綾道→平良北コース

綾道

ひららきた
平良北コース

あ
や
ん
つ

綾道

あやんつ

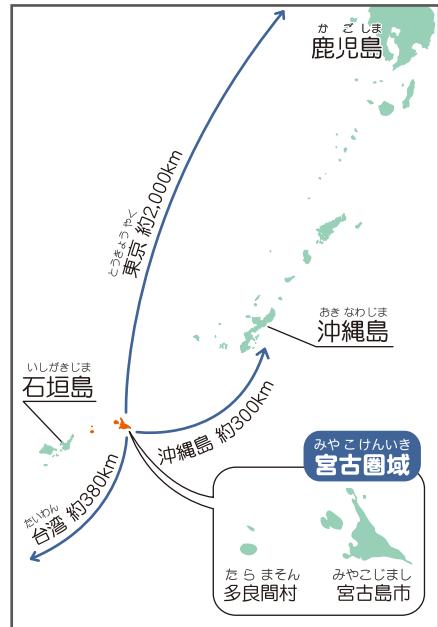
「あやんつ」とは、宮古のことばで
「おもむき」
「趣のある道」
といふ意味です

宮古島市の位置と面積

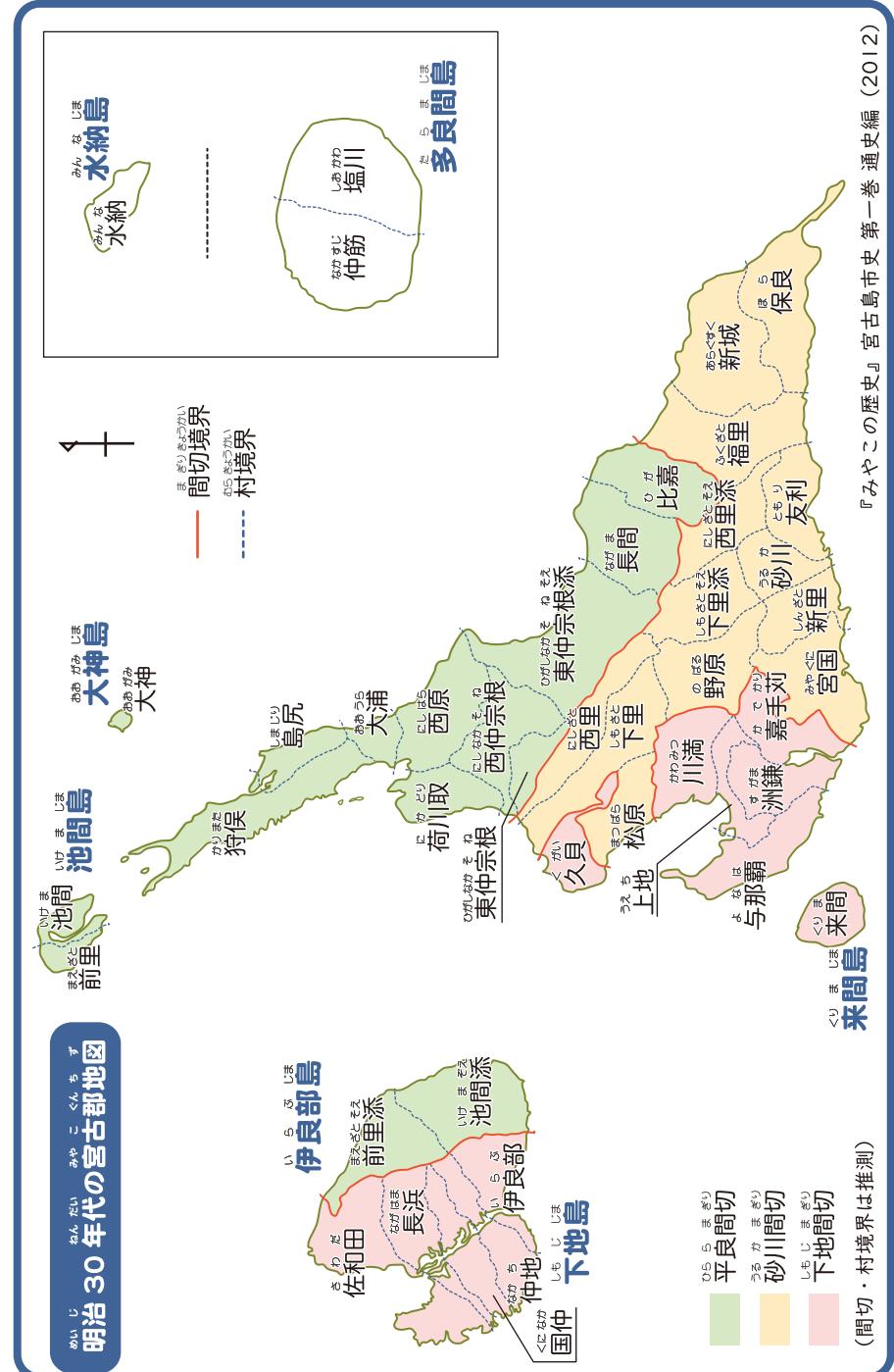
宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204平方キロメートル、人口約5万6,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



明治30年代の宮古郡地図





経道

ひら かきた
平良北コース
約4km(約3時間)

① 住屋御嶽

ドイツ皇帝博愛記念碑

② 貢布座(御用布座)跡

③ 産業界之恩人記念碑

④ 觀音堂経塚

⑤ 祥雲寺の石垣

⑥ 涨水石置道

⑧ 涨水御嶽と石垣

⑨ 蔵元跡

⑩ 豊見親墓(仲宗根豊見親の墓)

⑪ 豊見親墓(あとんま墓)

⑫ 豊見親墓(知利真良豊見親の墓)

⑬ 恩河里之子親雲上
ぼひの墓碑

⑭ 真玉御嶽

⑮ 人頭税石

⑯ 湧川まさりや御嶽

⑰ ウブムイ御嶽

⑱ カーニ里御嶽

⑲ 大和井

⑳ ブトウラ井

㉑ 大川

㉒ 保里御嶽

㉓ 芋又主御嶽

㉔ 船立御嶽

㉕ ユーラジ御嶽

㉖ 仲屋金盛ミャーカ

㉗ 外間御嶽

㉘ 旧仲宗根氏庭園

㉙ 仲屋まぶなり御嶽

㉚ 尻間御嶽

㉛ 住屋遺跡

㉜ 盛加ガー(洞井)

散策コースは住宅街の中や
民家に隣接しています。
お互いが気持ち良く
過ごせますよう、
ご配慮をお願い致します。



宮古島市の位置と面積.....	02
明治30年代の宮古郡地図.....	03
散策map.....	04
住屋御嶽 拝所	08
住屋御嶽の伝説.....	09
ドイツ皇帝博愛記念碑 県指定史跡	10
エドワルド・ヘルンツハイム船長の航海日記.....	11
貢布座(御用布座)跡 史跡	12
産業界之恩人記念碑 市指定有形文化財(典籍)	13
観音堂経塚 市指定史跡	14
祥雲寺の石垣 市指定史跡	15
祥雲寺の石垣保存修理工事.....	16
漲水石置道 市指定史跡	17
漲水御嶽と石垣 市指定史跡	18
宮古創世神話と人蛇婚説話.....	19
蔵元跡 史跡	20
蔵元・村番所の構図.....	21
豊見親墓(仲宗根豊見親の墓) 国指定重要文化財(建造物)・県指定史跡	22
ミヤークと横穴式墓地.....	23
豊見親墓(知利真良豊見親の墓) 国指定重要文化財(建造物)	24
豊見親墓(あとんま墓) 国指定重要文化財(建造物)	25
恩河里之子親雲上の墓碑 市指定有形文化財(典籍)	26
真玉御嶽 拝所	27
真玉御嶽の由来.....	27
ぶばかり石(人頭税石) 名所	28

人頭税の歴史.....	29
湧川まさりや御嶽 拝所	30
宮古の竜宮伝説.....	31
ウプムイ御嶽 拝所	32
カーニ里御嶽 拝所	33
大和井(大和井・ブトゥラ井・大川) 国指定史跡	34
保里御嶽 拝所	36
保里天太と2人の息子.....	37
ふち歴史比較年表.....	37
芋ヌ主御嶽 拝所	38
琉球王国の身分制度.....	39
船立御嶽 拝所	40
船立御嶽の由来.....	40
ユーラジ御嶽 拝所	41
玉城普門好善の話.....	41
仲屋金盛ミヤーカ 市指定史跡	42
野原岳の変.....	43
外間御嶽 拝所	44
コネイリ祭.....	44
旧仲宗根氏庭園 国登録記念物(名勝地関係)	45
仲屋まぶなり御嶽 拝所	46
尻間御嶽の由来.....	47
住屋遺跡 市指定史跡	48
宮古の英雄系統図.....	49
盛加ガー(洞井) 市指定史跡	50
「降り井」はどうやってできたの?.....	51
文化財の体系図.....	52
それぞれの文化財の一例.....	53

すみ や う たき

住屋御嶽



参道の奥にふたつの祠と二つのイビ(香炉)が配置され、左側の祠が本来のもので「根入りや下りあらうふむ真主^①」が祀られています。右側の祠とイビは、この御嶽から15mほど南東の「ニィーマムトウ^②」が移転したものです。祠の中は御神体として自然石が置かれています。また、拝所手前の左側にあるイビは「フナイウプツカサ^③」という御嶽を遙拝(遠くから参拝すること)しています。住屋御嶽は「根間の里御嶽」として、また学問の神様として参拝されています。

住屋御嶽の伝説

むかし に一ま
昔、根間というところに7才の
おとこ こ はは おや はや
男の子がいました。母親が早くに
な 亡くなつたので、継母が育ててい
ま まほ そだ
ましたが、この継母がとても心根
こころね
わる ひと
の悪い人で、この子がいなくなればいいと思っていました。

ある日、赤豆を煮ていると、男の子がそれを食べたいと欲しがるので、継母は「ビュウガッサ(クワズイモ)の葉で包んであげるから、住屋のアブ(洞窟)のそばに生えているのを取っておいで」と言いました。男の子は喜んで取りに行きますが、足を滑らせてアブに落ちてしまします。運良く途中に生えていた蔓に引っかかり、助けを求めて7日7晩泣き通しました。その泣き声は父親にも聞こえていましたが、なんと父親も大変心根の悪い人で、男の子の泣き声がうるさいと、蔓を切ってしまい、男の子は奈落の底へ落ちてしまいました。

そのアブの底は、「根入りやあろうの国」という、死んだ人がいく国でした。男の子から事情を聞

いた根入りやの神様は、男の子の行動を見て、とても心の正しい子だと分かり、元の世界へ帰してやりました。

元の世界へ戻った男の子は、住屋山へ行き、人々から「根入りや下りあらう踏む真主」と呼ばれる神様になったと伝えられています。また、この言い伝えから、この神様は父の行いをとても悲しみ、全ての男を呪うようになったので、男が参拝してはならないといわれています。そのため、祭祀のお供え物は男子には与えないといわれています。



クワズイモ：サトイモに似ているが食べられない。白い汁はかぶれることもありますので注意。



こうていはくあいきねんひ
ドイツ皇帝博愛記念碑



めいじ 1873(明治6)年、たいふう そうぐう みやこじま みなみかいがん ざしょうなん
ぱくした ドイツの商船ロベルトソン号を、宮古島の人々が手厚
く介抱し、船を与えて帰国させました。このことを知ったドイ
ツ皇帝ウイルヘルムI世は宮古島の人々の勇気と博愛の精
神を讃え、1876(明治9)年、軍艦チクロープ号を宮古島に派
遣して記念碑を建立させました。1936(昭和11)年には、建碑
60周年記念式典が催され、宮国のソナト浜に「独逸商船遭難
のちの地」と記された石碑が建立されました。

こうかいにつき
エドワード・ヘルンツハイム船長の航海日記

タイピンサン(宮古島)の人々の行動は
勇気と博愛の精神に満ちていた。私は感謝と敬愛の念を込めて37日間に及ぶタイ
ピンサンでのできごとを語りたい。
この島には博愛の人々がいる。

1873年7月9日

たいさう そらぐら けんめい ひなん さぎょう
台風に遭遇した。懸命の避難作業を
おこなったが、行方不明者2名、私を含めた
たいはん じょういん けが ふね
大半の乗員が怪我をした。船もマストと
かじ うしな ひょうりゅう よぎ
舵を失い、漂流を余儀なくされている。

7月12日

まるいちにち きのう ざしょう きゅうめい
丸一日漂流し、昨日座礁した。救命
ボートで脱出を図るが挫折。絶望の夜、
あか ひとかけ み あさ しお
私は灯りと人影を見た。朝になり、潮の
み 満ちるのを待つて島人のカヌーが近づいて
きて来た。浜には医師も待機し、手厚く保
護された。私たちは助かった。

7月21日

た 10日が経った。親切な対応に心も落ち
つ 着き、怪我も徐々に良くなっている。言
ば こと
葉も少しは通じるようになった。暇に任
づく ひま まか
せて机とイスを作った。島人は床で食事
をするが、私たちは座って食べたい。

7月24日

そろそく お いく つ に
船の搜索も終わり、幾つかの積み荷が
のこ 残ったが、ほとんどが役に立たない。
もり やまと てっぽう しゅうり
森で山鳩を見つけた。鉄砲を修理して
りょう で めつけやく めいわく
獵に出る。お目付役の島人は迷惑そう
だったが、黙認してくれる。6羽しとめ

すば ゆうしょく ま
た。素晴らしい夕食が待っている。

8月2日

やくにん き おお 船
3人の役人が来て、もうすぐ大きな船
おきなわじま
が来る。その船に乗って沖縄島に行く
そせん ちゅうごく む
か、私たちが操船して中国に向かうか、
きほ 決めて欲しいと。私たちは中国に向かう
さそく わんしろう はじ
ことにした。早速操船練習を始める。

8月10日

すうじつまえ らくば
数日前、私は落馬で怪我をした。一日
はや じゅっこう なお
も早く出航したいが、怪我が治らないと
きよか お しんせつしん
許可が下りない。これも島人の親切心な
かれ かいがん きねん
のだろう。彼らと海岸に出かけ、記念に
きなまえ きざ
大きなヤシの木に名前を刻んだ。

8月17日

いよいよ出航の日が来た。船は私たち
ちうもん おう かいぞう さくや おそ
の注文に応じて改造された。昨夜遅くまで別れを惜しんだ人々が手を振る中、大海へ乗り出す。さようなら、タイピンサン。さようなら、博愛の人々。

1876年7月22日

きこくご じけん ていこく ほうこく
帰國後、この事件をドイツ帝国に報告
けだかし しん
した。島人の勇気ある行動、気高く私心
えいえん つ
なき博愛の精神が永遠に語り継がれるこ
のぞ とを、私は望んでいる。



こうふざ ごようふざあと
貢布座(御用布座)跡



祥雲寺裏に隣接するこの場所には、近世から近代前期まで上納布に関する業務を執り行っていた蔵元配下の貢布座(御用布座)がありました。近世時代、琉球王府は宮古島から粟と反布を税として徴収していました。各村で織られた反布は、織り終わると村番所に保管し、蔵元に納入しました。



さんぎょうかいのおんじんきねんひ
産業界之恩人記念碑



1925(大正14)年7月に、宮古神社が西里1番地に創設された際、同境内に建てられました。
表には「産業界之恩人・下地親雲上恵根、砂川親雲上旨屋、稻石自・記念碑」の文字が記され、三者を産業界の恩人として讃えています。

下地親雲上恵根は、1655(順治12)年に、松の苗数本を持ち帰って試植し、1681(康熙20)年には2,000本の松の苗を植え、造林のきっかけを作りました。砂川親雲上旨屋は1597(万暦25)年に中国から芋かづらを持ち帰り、栽培普及に努めました。稻石は1583(万暦11)年、綾錫布を作り出して琉球国王に献上しました。これが宮古上布の元になりました。



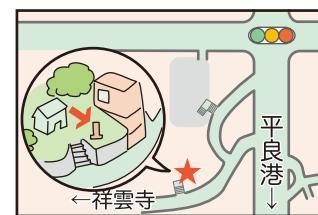
かん のん どう きょう づか
觀音堂経塚



いせき おもて きょうじゅれい うら ようせいひのえたつ ふゆ しら かわ うじ けい
い遺跡のひとつで、表に「経呪嶺」、裏に「雍正丙辰冬白川氏恵
どうここにたてる しる さうでん さようもん か うつ
道建焉」と記されています。経塚とは、經典や經文を書き写し
とうなか した う つか ひ
たものを塔の中または下に埋めた塚や碑をさします。この経塚
の下には「金剛經」の經文を墨で書いた小石が埋められている
といわれています。経塚が建てられた雍正丙辰は、1731(雍正
9)年で、白川氏恵道は同年から
けんりゅう ひらら かしらしょく
1737(乾隆2)年まで平良の頭職をつ
とめており、この経塚は恵道が在任
ちゅう こんりゅう
中に建立したもののです。

こうき 1699(康熙38)年に建
かんのんどう ぜい 納める船の往来の安全祈
おさ ふね おうらい あんぜんき
がんじよ すうけい あつ
願所として崇敬を集め
つたと伝えられます。

まえにわ
観音堂の前庭にある経
ぶっきょう
塚は、宮古に仏教が伝
しめかずすく
わったことを示す数少な
い
いせき おもて きょうじゅれい うら ようせいひのえたつ ふゆ しら かわ うじ けい
い遺跡のひとつで、表に「経呪嶺」、裏に「雍正丙辰冬白川氏恵
どうここにたてる しる さうでん さようもん か うつ
道建焉」と記されています。経塚とは、經典や經文を書き写し
とうなか した う つか ひ
たものを塔の中または下に埋めた塚や碑をさします。この経塚
の下には「金剛經」の經文を墨で書いた小石が埋められている
といわれています。経塚が建てられた雍正丙辰は、1731(雍正
9)年で、白川氏恵道は同年から
けんりゅう ひらら かしらしょく
1737(乾隆2)年まで平良の頭職をつ
とめており、この経塚は恵道が在任
ちゅう こんりゅう
中に建立したもののです。



しょううんじ いしがき
祥雲寺の石垣



しよううんじ さつまはん おうふ もうた
祥雲寺は薩摩藩が王府に申し立てたことで、1611(万曆39)
さんげつ おしょう かいざん ぶつじ はじ ひら
年に山月和尚によって開山(仏寺を初めて開くこと)されました。
けんりゅう りゅうきゅううおう こく せいし へんさん
1743~45(乾隆8~10)年に琉球王国の正史として編纂された史書『球陽(1743)』には、1696(康熙35)年の大地震の
さい てら いし がき くず しる
際、寺の石垣が崩れたことを記しており、この頃にはすでに
祥雲寺の石垣があつたことを示しています。18世紀初頭、宮
ぜんいき だいきぼ どぼくこうじ すす
古では全域にわたって大規模な土木工事が進められており、
祥雲寺の石垣もこの時、改めて築かれたと考えられます。

せんさい としけいかく まち おお
戦災や都市計画などで街並みが大
かく
きく変わり、石垣が消滅しつつある
いま とうじ せきぞうぶんか し うえ
今、当時の石造文化を知る上からも、
じゅうよう けんぞうぶつ
重要な建造物です。



祥雲寺の石垣保存修理工事

祥雲寺の石垣は、過去に大型車両が追突して崩れたことがあり、また石垣の内部に根をはった樹木が原因で、石が抜け落ちたり、外側にふくらんでいました。そのため、平成25年度の宮古島市neo歴史文化ロード整備事業で、この石垣を復元する石造文化財保存修理工事を実施しました。

①現況測量(三次元写真計測)

工事前に一般の現地測量に加え、写真計測を行う。

②番号付け



一番下の基礎になる石(根石)が歪んでいると再び崩落を起こすため、石積みを一度全て解体する。その後、再び石を元の位置に正確に戻すため、大小全ての石に番号を貼り付けていく。

⑤修理後測量(三次元写真計測)

修理完了後、再度写真計測を行い、修理の前後を記録する。修理によって動いた石や補填した石など確認することができ、次回の修理を行う際の基礎資料になる。

修理前



修理後



市指定史跡

1974(昭和49)年8月29日指定

漲水石畳道



18世紀初め、宮古の治山・土木工事が精力的に進められていました頃、各村の道路幅は2間半(4.5m)に拡張、改修、新設されたと伝えられています。1696(康熙35)年の大地震後、石畳道も2間に拡張され、治山事業で豊富に得られた石を敷きつめたものと考えられています。廢藩置県後もほぼ完全に残っていましたが、1921(大正10)年の漲水港築港、1942(昭和17)年の宮古神社移転にともなう工事、第二次世界大戦、戦後の道路拡張工事などで損傷し、現在は約3分の1を残すのみとなっています。

